

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2014.7
No.111



2014年度
複十字シール図案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第18回結核予防関係婦人団体中央講習会開催

第18回 結核予防関係婦人団体中央講習会 2014.2.12.~2.13



開講式にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

平成26年2月12日・13日の2日間、東京都千代田区のKKRホテル東京において秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、第18回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。

全国各地より105名が参加し、各種講演、新たに「クロスロードゲーム」を取り入れた班別討議が行われ、秋篠宮妃殿下は、講習会プログラムに御臨席のほか、班別討議の様子もご覧になりました。

(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)

第65回結核予防全国大会開催

平成26年3月14日島根県民会館において、秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、第65回結核予防全国大会が開催されました。

また、同大会で第17回秩父宮妃記念結核予防功労賞表彰式が行われ、本協議会からも事業功労賞(団体)に島根県連合婦人会が受賞し、秋篠宮妃殿下より表彰状が授与されました。(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)



大会式典にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

第十八回結核予防関係婦人団体中央講習会 お言葉

平成二十六年二月十二日（水）

本日、「第十八回結核予防関係婦人団体中央講習会」の開講式にあたり、全国よりお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

日本を始め、各国の結核をめぐる状況は、多くの関係者のご努力とご尽力により大きく改善されてきましたが、いまだ多くの課題が残っております。特にアジア諸国やアフリカ諸国においては、主要な感染症として、今日も猛威をふるい続け、貧困の大きな原因の一つになっております。

日本においても、平成二十四年には、二万人を超える新たな結核患者が発生するなど、依然として中蔓延国に位置しております。また、それに加えて、結核患者が高齢化しており、糖尿病などの合併症を有する患者の割合も増え、結核の予防や治療に一層細やかな配慮が求められるようになってまいりました。このような状況の下で結核をなくすためには、結核対策をゆるみなく進めていく必要があります。

さて、結核予防婦人会は、長年にわたり、それぞれの地域において、人々の結核予防に対する意識を高め、行動を進めるために、大きな役割を果たしてこられました。この意義深い活動に携わっておられる皆さまお一人一人に深く敬意を表します。

また、昨年十一月には、三年ぶりに婦人会によるカンボジアへのスタディツアーが実施されました。参加された理事の方々が、カンボジア結核予防会の女性医師や女性職員と話し合い、その結果、カンボジア結核予防会にも婦人会が作られることとなり、日本の婦人会が協力することになりました。こうした活動を通じ、婦人会の皆さまの地道な活動の輪が国をこえて広がっておりますことは、誠に喜ばしいこととでございます。

これから二日間にわたり講習会が開催され、結核を中心とした疾病とその予防についての講演や班別討議がおこなわれます。皆さまの今までの貴重な経験や情報を交換されながら、今後の結核予防活動の更なる充実に向けて話し合う良い機会となりますことを期待しております。

皆さまが健康を大切にされながら、これからも、国の内外における結核予防の活動を積極的に推進され、広く人々の健康のために力を尽くされますことを心より願います。開講式に寄せる言葉といたします。

第六十五回結核予防全国大会 お言葉

平成二十六年三月十四日（金）

「第六十五回結核予防全国大会」がここ島根県において開催され、皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

世界では、年間およそ八百六十万人が新たに結核を発症し、約百二十六万人が命を落としています。その多くはアジア・アフリカ諸国に集中しており、これらの国々に対して、患者の発見や治療のための人材育成、結核を含めた保健医療システムの構築など、日本の経験を活かし、海外での協力を更に進めていくことが求められております。

一方、わが国の結核事情を見ますと、結核罹患率は毎年着実に低下していますが、未だに年間約二万一千人が新たに結核を発症しています。また、結核患者の高齢化、若い患者層における外国人の割合の増加や、大都市での罹患率が高いことなど、複雑で多様な課題を抱えており、患者発見の遅れによる集団感染事例も度々発生しております。このような状況の中、結核対策を引き続き着実に進めていく必要があります。

昨日の午後におこなわれました研鑽集会では、「地域における結核対策の推進」というテーマで、今後の結核対策の問題点・課題についての発表がありました。国、結核予防会、保健所、医療機関、結核予防婦人会それぞれの立場からのお話を伺いました。今後、地域の実情に合わせたきめ細かい結核対策をおこなっていくことの重要性を改めて認識する機会となったのではないのでしょうか。

東日本大震災の発生より三年が経過しましたが、結核予防会が福島県外への避難者に対する健康支援活動を続けて実施していることは心強いこととあります。また、結核予防会が大規模な災害に備え、災害があった場合の支援体制を構築するため、災害対応マニュアルの作成や支援者登録制度、及び登録者の研修について話し合い、検討を進めていると聞いております。災害時に一人でも多くの方の健康を守るために結核予防会が今後も重要な役割を果たしていくことを期待しております。

これから本式典におきまして、「第十七回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰がおこなわれます。受賞される皆さまに心よりお祝い申し上げますと共に、これまで長年にわたり、結核の予防や対策に取り組んでこられましたご努力とご尽力に対し、深く敬意を表します。そして、皆さまの今後のさらなる活躍を願っております。

本日、全国より参加されている皆さまには、健康に留意されながら、今後も、結核の正しい知識の普及と結核予防活動を積極的に推進され、人々の健康の支えとなりますよう希望し、式典に寄せる言葉といたします。



公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 新役員紹介

新役員選任について、平成26年3月13日の平成26年度定期社員総会・理事会において以下の理事に決まりました。

会長	中畔 都舎子	(京 都 府)再任	理事	岩田 繁子	(富 山 県)再任
副会長	齋藤 芳子	(北 海 道)〃	〃	藤多 典子	(石 川 県)〃
〃	木下 幸子	(福 岡 県)〃	〃	中野 璋代	(滋 賀 県)〃
理事	向井 麗子	(青 森 県)〃	〃	藤本 貴子	(岡 山 県)〃
〃	三浦 絢子	(宮 城 県)〃	〃	寺尾 敦子	(高 知 県)〃
〃	小野 ナツ	(栃 木 県)〃	〃	牟田 久美子	(長 崎 県)新任
〃	松尾 美智代	(神 奈 川 県)〃	〃	山下 武子	(本 部)再任

理事就任に寄せて

一般財団法人長崎県地域婦人団体連絡協議会
会長 牟田 久美子



平成26年度より九州からの理事として就任いたしました長崎県地婦連の会長でございます。出来るかどうかは不安ですが、今まで結核予防関係の講習会に出席させて頂いたり、県知事のご挨拶に行ったり、街頭募金(海外の子供達のため)をやったりと少しは活動をやっていましたが、現在も少しずつ増えてきている結核に対しての知識を学びながら

会員の皆様方と頑張っていかなくはと思っています。健康づくりの輪を広げて、複十字シール運動期間に併せた募金運動をより一層の力を入れて実施し行政等も含め多くのご協力を頂くよう、頑張らなければと思っています。活動の悩みはありますがいろいろと結核制圧の取り組みを考え、より以上の知識を得、感染者の病として早期発見、そして治療の重要性を高齢者等にも知って頂き、私たち自ら健康診断を受けるよう、地域の方々にも呼びかける活動をして理解を求めていくように頑張っていきたいと思っています。



第65回結核予防全国大会
全国結核予防婦人団体連絡協議会 定期社員総会

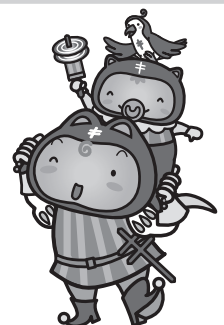


8月1日から全国一斉複十字シール運動が始まります

つきましては、全国知事表敬訪問を今年も宜しくお願いたします。結核予防全国大会の決議宣言についてご説明いただき、複十字シール運動へのご理解、ご協力をお願いいたします。

また、9月24日～30日結核予防週間に先立ち「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」を実施します。普及と発展を図るため街頭募金活動等、昨年同様ご協力お願いいたします。

目標は一つ 結核のない明日をつくるために！



写真で
振り返る



第18回 結核予防関係婦人団体中央講習会

(2月12日・13日 KKRホテル東京)



全国各地の婦人会から105名受講されました



皆さん熱心に受講されている様子



結核予防婦人会 山下武子 理事・事務局長の
講演では終始笑いがあふれていました



班別討議オリエンテーション
慶應義塾大学商学部 吉川 肇子 教授



受講生と問題点や解決策について語る吉川教授



終講式では受講生代表として
岡山県津山市愛育委員連合会
美浪一十恵 様から
謝辞をいただきました



皆さん積極的に意見を交わされました



各班からの結果発表

中央講習会スケジュール

テーマ:自分の健康は自分で作る ～国民運動への展開～

● 第1日 2月12日(水) ●

● 第2日 2月13日(木) ●

13:10 開講式 13:10～13:40
 主催者挨拶 結核予防婦人会 会長
 主催者挨拶 結核予防会 副理事長
 総裁おことば 秋篠宮妃殿下
 来賓挨拶 厚生労働省 健康局長
 健康の歌斉唱

13:50 写真撮影 13:50～14:05

14:15 講演①(50分) 14:15～15:05
 『結核という病気について～患者から学ぶ～』
 公益財団法人結核予防会複十字病院 診療主幹 佐々木 結花

15:15 講演②(30分) 15:15～15:45
 『BCG接種 -子供の結核予防の決め手-』
 公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨

15:55 講演③(45分) 15:55～16:40
 肺の生活習慣病
 『知っていますか? COPD(たばこ病)』
 公益財団法人結核予防会複十字病院 院長 工藤 翔二

16:40 講演④(45分) 16:40～17:25
 『喫煙・受動喫煙の有害性が理解されないのはなぜか』
 中央内科クリニック 院長 村松 弘康

8:30 講演⑤(30分) 8:30～ 9:00
 『結核予防婦人会と複十字シール運動』
 公益財団法人結核予防会 事業部顧問
 公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 理事・事務局長 山下 武子

講演⑥(30分) 9:10～ 9:40

9:10 『ロビー活動と婦人会への期待』
 Mediate Hayashi 株式会社 代表取締役社長 林 通平

9:40 班別討議⑦(110分) 9:40～11:30
 『考える・まとめる-計画を立てる-』
 「クロスロードで考える婦人会活動の活性化」
 慶應義塾大学商学部 教授 博士(文学) 吉川 肇子
 全体発表会・総評

11:40 婦人会の皆様へ(20分) 11:40～12:00

12:00 終講式 12:00～12:20
 主催者挨拶 結核予防婦人会 副会長
 主催者挨拶 結核予防会 専務理事
 修了証・バッジ授与
 受講生代表挨拶
 蛍の光斉唱

ゲーム「クロスロード」についてーリスク・コミュニケーションを学ぶー

公益財団法人結核予防会 総裁 秋篠宮紀子

今年の2月に開催された中央講習会では、新しい試みとして、班別討議の時間に「クロスロード」というゲームによる研修をおこないました。この頁では、ゲームを紹介し、班別討議の様子を簡単にお伝えいたします。

「クロスロード」は、阪神淡路大震災の体験を被災地の自治体職員から聴き取った調査をもとにして作られた、災害対策の教材として用いるゲームです。大震災における災害対応の問題からなる「神戸編」をはじめ、これまでに「感染症編」や「食品安全編」など、様々な内容のゲームが作られています。

ゲームの参加者は、5～7人のグループに分かれます。

ゲームで使うのは、問題カード数枚、各参加者がもつYesとNoのカード2枚、そして縦横3cmくらいの金座布団と青座布団です。

ゲームでは、はじめに誰かが問題カードを読み上げます。問題カードには、例えば図1のような文章が書かれています。

<input type="checkbox"/> あなたは…食料担当の職員 <input type="checkbox"/> 被災から数時間。避難所には3000人が避難しているとのたしかな情報が得られた。現時点で確保できた食料は2000食。以降の見通しは、今のところなし。まず2000食を配る？ <div style="text-align: center;"> Yes (配る) ⇔ No (配らない) </div>

図1 問題カード例

参加者は、この問題に対する答えを考え、YesカードとNoカードのどちらか1枚を選び、裏向きにして出します。全員がカードを出し終わったら、一斉にカードを表に返します。その結果、多数派の回答をした参加者が得点として青座布団を一つもらいます。ただし、もし1人

だけ他の人と違う回答をした場合には、その1人のみ金座布団をもらいます。

その後、各参加者は、自分がYesまたはNoと回答した理由をグループの人に説明します。同じ回答を選んだ人の後に話すときには、「自分の考えも同じだ」とは言わずに、回答を選んだ理由や考え方を自分の言葉で説明するようにします。また、他の人の話を聞いていてもっと知りたいことや確かめたいことを、積極的に質問してよいことになっています。

すべての問題カードについて、同じように進め、座布団が一番多く集めた人が「勝ち」となるルールです。

「クロスロード」のねらい

ー気づきと発見ー

「クロスロード」で扱う問題には簡単な「正解」がありません。阪神淡路大震災後に自治体の職員が経験したのは、情報も時間も限られている中で、様々な問題に決断を下さなければならない、という状況でした。ゲームでは、そのような状況を疑似的に経験することになります。問題は100字程度で記載され、細かい情報は与えられません。参加者は、それぞれ想像力を働かせ、どのような場面かを考えて、YesまたはNoの回答を決めることになります。

情報が十分でない中で問題解決が求められる状況ですが、1つの正解に到達しなくても、参加者がお互いに自分の意見を伝え、話し合うことを通して、問題について多様な視点が存在することに気づく機会となります。同じYesという回答でも、人によって注目した点や決めた理由が異なることがあります。また、1人だけ違う回答をした人が金

座布団をもらうことは、少数意見に耳を傾け、違う物の見方を知るきっかけになります。

このように、「クロスロード」では、問題カードで示されるリスクのある状況を思いうかべ、より適切な解決にむけてグループ内で各自の考えを伝え、話し合う、コミュニケーションを大事にしています。ゲームに参加することで、いわゆるリスク・コミュニケーションを体験することができるとも考えられます。

班別討議での様子

今回の班別討議では、このゲームを開発されたお一人である、慶應義塾大学の吉川肇子教授が、ゲームのオリエンテーションと進行、まとめと総括をしてくださいました。参加者は、5名ずつ21の班に分かれ、災害や食品安全などの暮らしに関わる問題と、結核患者への対応や婦人会活動への参加に関する講習会ならではの問題について、活発に議論しました。最後に、4つの班の代表者が、議論の結果を参加者の皆さまに発表しました。

ゲームを用いた研修は、結核予防婦人会として初めてのことでした。少人数のグループでしたが、課題に対してよりよい選択肢を考え、自分とは異なる選択をした人々に対する理解も深まり、たくさんの話し合いができたと思え、手応えを得た参加者も多かったようです。

結核予防活動を推進するために健康やリスクに関するコミュニケーションについて研究していたことがきっかけで、この「クロスロード」を婦人会の皆さまにご紹介することができましたことを大変うれしく思っております。

第17回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞(団体)に輝く

島根県連合婦人会
会長 小林 洋子



春寒ようやくゆるむ3月13日、14日第65回結核予防全国大会が総裁秋篠宮妃殿下ご臨席を賜り島根県で開催しました。全国結核予防婦人団体連絡協議会は全国各地より、また県内会員も各地より多くのご参加があり県民会館に於いて開催されました。

私たち島根県連合婦人会が全国結核予防婦人団体連絡協議会に加入したのは昭和50年、当時は会員の中には結核で子供や家族を亡くした体験者も多くあり熱心な活動の展開があったかと思われます。その後、変わりゆく社会の変化の中であって活動の難しさがあつたり乍らも、私たちは過去の悲惨さを思い起こし、この活動を継続することの大切さを知ってもらう努力を続けたことが、今回の団体受賞に繋がったことは会員一同光栄であり感謝いたしております。

全国結核予防婦人団体連絡協議会では、秋篠宮妃殿下ご臨席のもの

と、私どもの活動発表をさせて頂き励ましのお言葉を頂くなどの機会も得ましたことに深く感謝いたします。

2日間の研鑽から結核罹患率は減少しておらず都市化が進み生活環境の影響による発症や、高齢化施設での集団感染症などがあり定期的な健診の必要性など、また発展途上国への支援の継続など、世界中から結核をなくす活動が継続され人々が健康で明るい生活を営まれる社会の実現に、今後も全国結核予防婦人団体連絡協議会は複十字シール募金の活動を実施し、結核予防の正しい知識の普及啓発に努めてまいります。

第65回結核予防全国大会を終えて

島根県連合婦人会
常任理事 安達 恵子

「あら！また複十字！」と嫌な顔をしていた複十字シール運動でした。結核という病気はほとんど無くなっていったと聞いたり、いや最近老人性結核が流行しているとも聞いたり、しかし大方無くなった言う方が強く、そんな中でお願いして募金していただくとは気の重いことでした。

それが少し気が楽になったのは、交通安全運動の中で募金してもらい封筒を高齢者への交通安全運動に使うということになったからです。封筒に靴に貼る反射テープやお手紙を入れ安野光雅先生の複十字シールで止めて一人ずつ渡すのです。複十字シールのつくしやお雛様の絵を楽しく見て下さる人がいらっしやるのではと思いつつ配ってもらいます。

そんな中、第65回結核予防全国大会がこの島根県で行われました。テレビで拝見したことはありましたが実際に秋篠宮妃殿下をお迎えして開かれた大会は圧巻で大会の意義は高まったと思いました。

大会の後講演があり出雲大社の千家権宮司が「遷宮の持つ意味」という演題で話され「遷宮は神の世界の活力をとり戻すことであり結核予防会の記念大会も同じことである」と結ばれましたが、まさにその通りだと思いました。

全国大会が各県を回って行われるということは、その地、その地の人びとに結核予防に対する考えがはっきり認識されて、その必要性が実感され、やっぱりやらなくてはという気を起こさせるのです。遷宮が神の力を復活させるように全国大会がそれへの思いを新たにさせるのです。全国大会は複十字シール運動に対しての強い呼びかけでした。



第65回結核予防全国大会 決議

平成26年5月に、結核予防会は創立75周年を迎えます。この間、官民を挙げて結核対策が進められ、平成24年の新登録患者は21,283人、罹患率は人口10万対16.7にまで減少しました。しかし、我が国の結核の状況をみまると、合併症を伴う高齢患者の増加、感染性のある結核患者の受診・診断の遅れ、若年層での外国人患者割合の増加、自治体別の罹患率格差など、複雑化し質的な変化を呈しており、重点的な対策の強化が求められております。

世界に目を向けると、結核は依然として大きな健康問題となっており、特にアフリカ、アジアなど開発途上国では罹患率が高いのみならず、多剤耐性やHIV合併結核等の課題が明らかにされており深刻な状況にあります。世界的健康戦略であるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のためにも、ストップ結核ジャパンアクションプランの確実な推進により、我が国が世界の結核制圧に向けた取り組みを継続していく必要があると考えられます。また日本発の新しい診断技術や、新たな抗結核薬などを積極的に活用することにより、効果的な結核対策を進めていく必要があります。

さらに、結核予防会の基本方針の柱である、呼吸器疾患対策、生活習慣病対策も継続的に取り組む必要があります。

よって、今大会において検討の結果、次の事を決議いたします。

1. 国内における結核対策としては、

- ①国、地方公共団体、結核予防会及び結核予防会各都道府県支部においては、結核に関する知識や技術を国民や医療関係者に正しく伝え、結核に対する意

識の向上を図ること。

- ②国及び地方公共団体は、「結核に関する特定感染症予防指針」に示された実効性のある結核対策の充実に努め、地域の特性をふまえた結核医療提供体制を確立すること。

2. 結核の国際協力としては、

- ①国は、「ストップ結核ジャパンアクションプラン」に基づき、開発途上国への支援を推進するとともに、結核対策を含む保健分野に経験がある関係団体の主体的活動を支援すること。
- ②我々は、日本発の新しい診断技術や抗結核薬の有用性を積極的にアピールし、その普及を図り、世界の結核対策に貢献すること。

3. 活動資金の造成としては、

我々は、結核予防の普及啓発や国際協力の貴重な財源となる複十字シール運動を盛り上げるため、関係者・団体への働きかけに努めること。

4. 呼吸器疾患対策としては、

- ①我々は、「呼吸の日」(5月9日)・「肺の日」(8月1日)等の行事を通じ、国民に対する呼吸器疾患の普及啓発に努め、「健康日本21(第2次)」が掲げるCOPDの認知率向上を目指すこと。
- ②我々は、COPDの調査・研究を支援するとともに、肺機能検査を健診の必須項目に加えるなどCOPD、肺がん等の呼吸器疾患の早期発見に努めること。

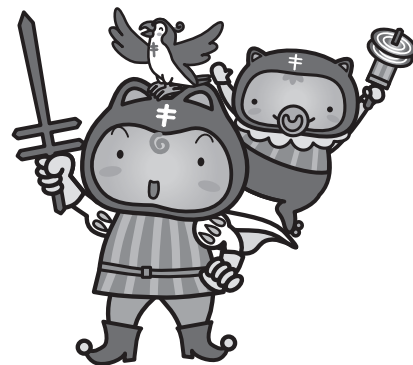
5. 特定健診・特定保健指導対策としては、

- ①国は、特定健診・特定保健指導について、生活習慣病予防における指針のもと円滑な実施の支援に努めること。
- ②国、地方公共団体、結核予防会及び結核予防会各都道府県支部は、「結核とタバコ」の関連性を広く世間に訴え、禁煙教育に努めること。
- ③我々は、特定健診・特定保健指導の推進を国民運動にしていくため、関係者と連携し、スマートライフプロジェクト等の普及啓発活動を支援すること。

上記の他、我々は、東日本大震災被災地への健康支援を継続して実施すること。

以上について、一層努力いたします。

平成26年3月14日
第65回結核予防全国大会



第65回結核予防全国大会宣言

我が国の結核罹患率は年々減少し、平成24年は人口10万対16.7となりました。しかし、我が国の結核の状況をみますと、合併症を伴う高齢患者の増加、働き盛りで感染性のある結核患者の受診の遅れ、若年層での外国人患者割合の増加、自治体別の罹患率格差など、複雑化し質的な変化を呈しております。

昨今、医療施設等で結核集団感染事例が相次ぎ、「結核」の文字を目にする機会が増えております。これは、医療関係者の結核に対する意識の低下も一因と思われます。

我々は、国内においては、医療従事者、国民に対して結核に関する正しい知識の普及啓発を積極的に実施します。また、実効性のある結核対策の充実に努め、地域特性をふまえた結核医療提供体制の確立を関係機関に働きかけます。さらに、東日本大震災被災地への健康支援を継続していきます。

世界に向けては、我が国が高まん延を克服した経験を活かし、かつ、日本発の新技术を積極的に活用するよう働きかけるとともに、ストップ結核ジャパンアクション

プランを確実に実施し、我が国が従来から取り組んできた開発途上国への支援の手を緩めず、結核の制圧ひいてはユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成へ向け総力を挙げて取り組みます。

さらに、特定健診・特定保健指導の推進、肺がん、COPDをはじめとする呼吸器疾患対策をすすめ、人々が健康で明るい生活を営めるよう努力します。

以上宣言します。

平成26年3月14日
第65回結核予防全国大会

●● 結核に関するパンフレットのご案内

ストーリーが展開されるマンガ形式なので、結核をよく知らない人にも印象深く、正しい知識の普及啓発にぴったりです。

患者様やご家族の方々への説明や、理解度アップの資料として、また支援者への教材として、まとめてご購入されることをオススメします。

平成26年改訂
結核?! でも心配しないで
結核予防会結核研究所対策支援部長 小林典子 著
A5判 / 24頁 (50g) 価格: ¥248 (税込)



平成26年改訂
DOTSってなあに
前複十字病院 斉藤ゆき子・結核研究所 永田容子 著
A5判 / 16頁 (35g) 価格: ¥248 (税込)

問い合わせ先: 公益財団法人結核予防会 事業部 出版調査課 電話: 03-3292-9289
※お問い合わせは月～金曜日(祝日・年末年始期間(12月29日～1月3日)を除く) 8:30～17:00となっております。
上記時間帯以外のお問い合わせは、翌営業日の対応とさせていただきます。ご了承ください。

訃報

公益財団法人結核予防会 長田功 理事長が平成26年3月18日逝去されました。

故人は、東京大学医学部を卒業後 昭和58年に財団法人結核予防会保生園病院（現在 公益財団法人結核予防会新山手病院）に入職し診療部長、副院長、院長、結核予防会常任理事を経て平成21年より結核予防会理事長職にありました。この間、新山手病院の消化器外科医として地域医療に貢献し、平成20年に制度化された公益財団法人への移行を含む結核予防会の事業展開にご尽力されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。



在りし日の長田功理事長 享年 74 歳

長田功先生を偲んで

公益社団法人 全国結核予防婦人団体連絡協議会
会長 中畔 都舎子

咲きほこった桜の花が散り始めた去る3月末日、長田功理事長の訃報の知らせに驚きと悲しみに接し心から哀悼の意を捧げます。

長田功理事長は平成21年公益財団法人結核予防会の理事長に御就任されました。

先生は、予防医学のトップとして、常に物静かでそれでいて消化器外科の名医として地域医療にも貢献され先生の歩んでこられたご功績は高く評価されるでめりましょう。

私達婦人会の研修会ははじめ、会合には常にお出ましをいただき、心の残るご挨拶を頂戴していた事を思い出しています。謹んでご冥福をお祈り



申し上げます。

日本は今、少子高齢化を迎え私達が生涯健康寿命を全うするために予防医学の必要性が問われています。私達が地域で永年にわたり取り組んでまいりました結核予防をはじめ生活習慣病、たばこ病COPDの啓発等の事業に更に接触的に参加し、自らの健康への意識をより高め女性の果たす役割を改めて問い直し、結核予防知識の普及に努力することが長田功理事長のご意志に報いることかと存じます。

合掌

平成26年度複十字シールの紹介 ～動物～

安野光雅(あんの みつまさ)先生のデザインされた、今年の複十字シールは、昔話や民話に登場する動物達が勢揃いしています。ラクダやブタ、ウマにトナカイ、そしてクマと登場する物語の想像力が広がります。日常の向こう側にある物語の世界、子供の頃に読んでいたあの物語を思い出してどこか懐かしく感じます。

平成26年度複十字シール

DOUBLE-BARRED CROSS SEALS 2014
JAPAN ANTI-TUBERCULOSIS ASSOCIATION

すこやかに 2014-15 日本 TB Free World 2014-15 NIPPON 結核のない世界へ 2014-15 日本

健康な未来のために 2014-15 日本 Act against TB 2014-15 NIPPON みんなのために 2014-15 日本

デザイン・安野光雅

複十字シール
みんなの力で結核や肺がんをなくすために
複十字章は世界共通の結核予防運動の旗印です

公益財団法人結核予防会

そして、今年は新たに複十字シール運動キャラクターの複十字シールも出来ました。シールぼうや、シールちゃん、シールハイハイの可愛いキャラクター達もどうぞよろしくお願ひします。

多彩な複十字シールを皆さまのアイディアで広めていただき、是非ご活用ください。

公益財団法人結核予防会 事業部普及広報課

DOUBLE-BARRED CROSS SEALS 2014
JAPAN ANTI-TUBERCULOSIS ASSOCIATION

すこやかに 2014-15 日本 TB Free World 2014-15 NIPPON 結核のない世界へ 2014-15 日本

健康な未来のために 2014-15 日本 Act against TB 2014-15 NIPPON みんなのために 2014-15 日本

複十字シール
みんなの力で結核や肺がんをなくすために
複十字章は世界共通の結核予防運動の旗印です

公益財団法人結核予防会



(秋田県・akiponさんからの作品)

イラスト・カット募集

平成26年11月号(健康の輪No.112)に掲載するイラスト・カットを募集致します。
花・動物・その他、何でも結構です。
締切は、平成26年9月12日(当会必着)です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
TEL:03-3292-9288

